

# てこな・ミュージズ・ジャーナル

## 音楽用語のお話し

今回は「楽しい音楽用語!」というテーマでいかがでしょうか?

といっても、その知恵をいただいたのは、「これで納得!よくわかる音楽用語のはなし」です。著者は日本人とイタリア人のご夫妻ですが、音楽用語に使われているイタリア語本来の意味を興味深く明らかにして、読んで楽しい本なので、その内容を拝借することにしました。

### 速度記号から

#### ～アンダンテ Andante

楽譜を開いて、まず目につくのが速度記号ですね。遅い方からざっと並べてみると、ラルゴ、レント、アダージョ、アンダンテ、アレグロでしょうか。いずれもイタリア語です。

タクシーに乗ると猛スピード、恐ろしくなって、とっさに「ノン、ノン、アンダンテ」と叫ぶとどうなるのでしょうか? 「歩く速さで」という音楽用語だと学んだことを思い出して使ってみたところ、スピードを緩めたとか。イタリア語には「歩く速さで」という意味はありませんが、「普通の、中くらいの、まあまあ」と言いたいとき、アンダンテを使うからです。

#### ～レントとラルゴ Lento, Largo

スピードを落として! と言うとき、レントも通じそうです。というのは「ゆっくりと、遅く」だからです。でも同じような速度記号だと私たちが学んだラルゴでは、スピードを緩めてくれないようです。ラルゴは幅広くといった意味なので、音楽用語を普段使っていない運転手さんには、何のことが分からないのです。でも洋服を買うときには役に立ちます。ラルゴとは「幅広く」ですから、試着した洋服が小さかったときに、ラルゴと言えば、サイズの大きなものを持ってきてくれるとか。

#### ～アダージョ Adagio

ではメトロノーム記号の「遅く」にあたるアダージョはどうでしょうか? アダージョ adagio は、ad と agio の2語から成り、ad は「～ように」、agio は「くつろぎ」「余裕」なので、adagio は「くつろいで、余裕をもって」、が本来の意味となります。そこから派生して、速度的には遅くということになるのですね。

#### ～アレグロ Allegro

速くを意味するアレグロはどうでしょうか? まず発音ですがアレグロではなく、アッレーグロ。日常の意味はとなると、「陽気に、軽快に、明るく」です。先を急ぎたいと

## 市川市文化振興財団 音楽総合プロデューサー 小坂 裕子

き、スピードをあげてほしくて、音楽用語のアッレーグロを思い出して口にする、相手はもっと陽気に明るくねと言われたと思うってしまうそうです。

### 他の記号から

#### ～ドルチェ Dolce

ドルチェと楽譜に書いてあると、「優雅に」演奏してほしいということですが、ドルチェはもともと、「甘い」を意味して、お菓子などに使われます。ドルチェだねと言われたら君は優しく愛くるしいねと賛美されたことになるそうです。ドルチェな視線を向けられたというと、男性から恋されたということだとか。

#### ～フェルマータ Fermata

曲の最後、音符の上にフェルマータの記しをよく見かけますね。2倍から3倍、その音を伸ばすための指示記号ですが、イタリアでは、バス停、路面電車の停留所にフェルマータと書かれているそうです。語源的には「動きを停止」ということで、そこでバスが留まるバス停をフェルマータと呼ぶようになったとか。立ち止まるということから、音符の上に書かれると、しばらくそこで止まる、音を伸ばすということになるのですね。

#### ～レガート Legato

滑らかに演奏してと了解するのがレガートですが、本来の意味は「縛る」です。結ぶ、編むもレガートです。犬をつなぐのもレガートだそうですから、結局、レガートとは、離れているものを一体化させるということなのですね。そこで音楽用語としては、滑らかにつないでいくということになるのでしょう。

#### ～スタッカート Staccato

音楽用語では、「音をつなげずに離して弾く」と理解されるのが普通です。けれどもイタリアでは仕事から急いで帰るときもスタッカート、色彩のコントラストが素晴らしい場合、色がスカッターとされていて素敵だ、陸上で一位の選手が二位を大きく離れているときも、スタッカートしていると言うそうです。

#### ～クレッシェンド Crescendo

さて字数も残りわずかとなりましたので、もう少し。

クレッシェンドは音楽では音量をだんだん大きくしたいときに使われますが、イタリア語本来の意味に「体重が増える」というものがありますから、若い女性には禁句ですね。

さらにいろいろお知りになりたい方は、「これで納得!よく分かる音楽用語のはなし」(関孝弘 / ラーゴ・マリアンジェラ著 全音楽譜出版社)をどうぞ。